2010.05.31
vol.14

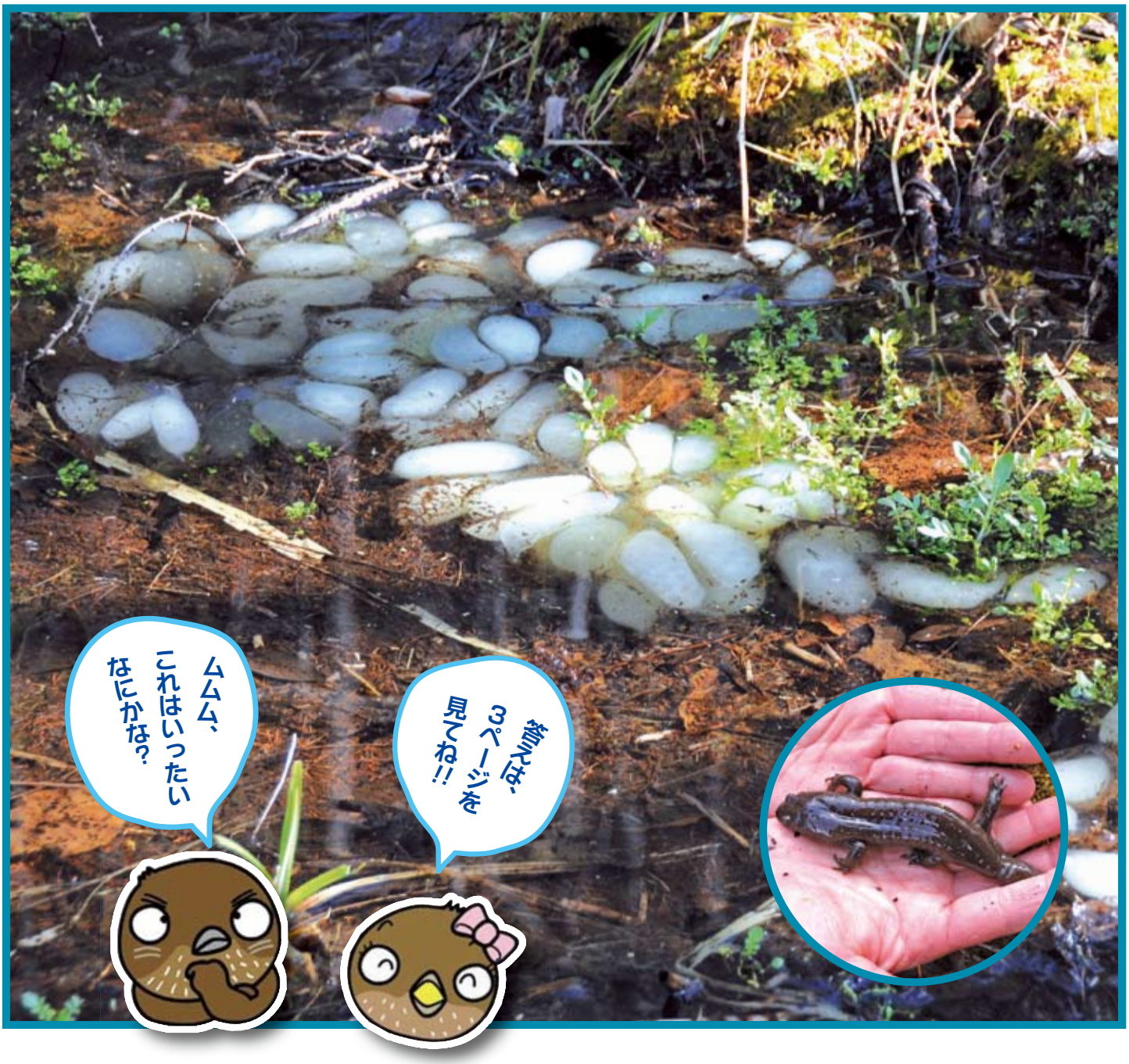
赤谷の森だより

Akaya no moridayori

AKAYA PROJECT
赤谷プロジェクト地域協議会
㈶日本自然保護協会
赤谷森林環境保全ふれあいセンター

特集 赤谷の森写真館 ❷❸

赤谷プロジェクトの紹介 赤谷の森の歴史 ……4-5
赤谷プロジェクト活動日誌と今後の活動予定 ……6
新メンバーの紹介 ……7-8
赤谷プロジェクトに望むこと ……8



赤谷の森 写真館

「赤谷の森写真館」では、赤谷プロジェクト関係者が撮影した「赤谷の森」のいきもの、風景などの写真を季節ごとに紹介しています。

Akaya's forest photogallery

ブナ

撮影：茅野恒秀

撮影者コメント

新緑から深緑へと移りかわる６月の赤谷林道では、直径１メートルもあるブナの大木に間近に迫ることができるのが楽しみです。ふと上を見上げると、隣りあったモミの木と背比べをしているように、空へ幹を伸ばしていました。

ノウサギ

撮影：竹村秀雄

撮影者コメント

目の前に現れ５ｍくらいしか距離がないのに道路脇にジッと立ち止まっていてくれました。ノウサギは警戒心が強く、見かけるときは猛スピードで走り去っていくのが普通。これはまだ子供のようです。

サポーターたち

撮影：茅野恒秀

撮影者コメント

赤谷プロジェクトのサポーターたちです。毎月第一土日の「赤谷の日」は全国からサポーターが「いきもの村」に集い、野生動物や森林の基礎データを得るための調査活動や炭焼き等を通じて地域の文化を学んでいます。
現在、赤谷プロジェクトでは、サポーターを募集しています。興味のある方は、最終頁の日本自然保護協会まで、お問い合わせください。

モリアオガエルの卵かい（右）オタマジャクシ（左）

撮影：小鮒　守・竹村秀雄

撮影者コメント

６月、緑あふれる「赤谷の森」で生物たちの活動も活発になります。水辺に生えた木々の枝先にふわふわとした泡のかたまり、泡の中をのぞいてみると卵が見えます。やがて生まれた子どもたちは卵かいから水の中へ飛び込んでいきます。モリアオガエルの誕生です。**（小鮒）**

初めて見ましたが、大きな目、吸盤、尾。もう「かわいい」としか言いようがありません。なお、親や卵かいは ６ 月下旬から７月の産卵時期に、オタマジャクシはその後２ヶ月間くらいは見つけることは簡単です。**（竹村）**

ベニシジミ

撮影：林　　武

撮影者コメント

この蝶は「ベニシジミ」というたくさんのシジミチョウの中で全国に見られるチョウの一つですが、シジミという名のとおり１センチ大の小さいチョウなので見過ごしますが、シジミチョウは波長の長さによって、羽根の色が変化して「こんなきれいな色」をしていたのかと驚きの色が見えます。一度観察をしてはいかがでしょうか。

赤谷の森

撮影：川端自人

撮影者コメント

早朝、いきもの村から、合瀬・法師方面に目をやると、谷の中の雲がちょうど晴れなんとしているところ。雲のかかり具合が幻想的に感じられました。

表紙の答え

（上）クロサンショウウオの卵かい

写真は、林道脇のなんといった特徴のない草薮の中に浅い水溜りがあり、一面にクロサンショウウオの卵かいがありました。ちょっとした水辺が、生き物にとって大切な産卵地になるのですね。1匹が一対の卵かい(2 個)を産みます。

（撮影・竹村秀雄）

（下）クロサンショウウオの成体

写真は、卵かいのすぐそばで見つけた親（オス）です。生活は、森林の林床部の枯れ葉、倒木、石の下にひそんでいます。体長は、12 ～ 18 センチと大型です。クモ、ヤスデ、昆虫、ミミズなどをえさとしています。

（撮影・星野理恵子）

赤谷の森でわかったこと

木材、薪、炭、肥料…生活を支えていた赤谷の森

岩手県立大学　総合政策学部講師
茅野恒秀

新治を囲む高い山々と、そこに広がる深い森。この山や森のおかげで、人々の生活が成り立っていたことがわかってきました。その昔、人と山はどう関わってきたのでしょう。『新治村誌』を調べ、町民のみなさんからお話を聞いた、茅野さん（赤谷プロジェクトサポーター）のレポートです。

●江戸時代の生活と森林

上杉謙信の時代に重要な街道となる

新治地区（旧新治村）は、古くから関東地方と新潟県を結ぶ三国街道（現・国道17号線）の村として発展してきました。

三国街道は奈良～平安時代に開かれたといわれ、戦国時代に上杉謙信が峠越えの整備を進めて、集落も形づくられました。ちょうど、昨年のNHK大河ドラマ『天地人』の時代ですね。

三国街道は、江戸時代には東海道など「五街道」についで重要な街道となりました。大名が参勤交代で領地と江戸を行き来するのに使い、永井宿（現在の永井地区）が越後の米の問屋場に指定されるなど、政治・経済・文化の重要な交流点となったのです。

このころ新治の人たちは農業・林業のかたわら、三国街道を往来する旅人や商人の荷役、馬の手配、雪道の先導、温泉の湯守、猿ヶ京関所の役務などの仕事もしていました。

●山から得たもの

肥料用の草場を管理森を育てていた

農林業について、『新治村誌』には興味深いことがたくさん記録されています。

田んぼや畑には肥料が必要ですが、古来、人々は山から草を採ってきて肥料としました。そのための採草地（秣場）は集落ごとに決められ、大峰山では10の集落が採草の権利を持っていました。

図1は大峰山の、草を刈る権利を持つ集落を示した図です。図の左上には「赤谷山（薪山）」と書かれています。赤谷山とは大峰山の奥に位置する山（現・小出俣山＝永井宿郷土館にそう記された絵図がありますの）のこと。ここが薪という大事なエネルギー源を得る場だったことがわかります。

また林業も行われており、元禄・宝永年間（1700年ころ）には、猿ヶ京や吹路の山からクロベ（ヒノキの一種）を切り出し、江戸へ販売したという記録が残っています。

一方で人々は、森を守り育てていました。延宝2年（1674年）、合瀬村（当時）の地侍、高橋四郎兵衛はこのような法度書を出しています。

・合瀬山の草木を伐り取らないこと

・監視のため毎月山をめぐる

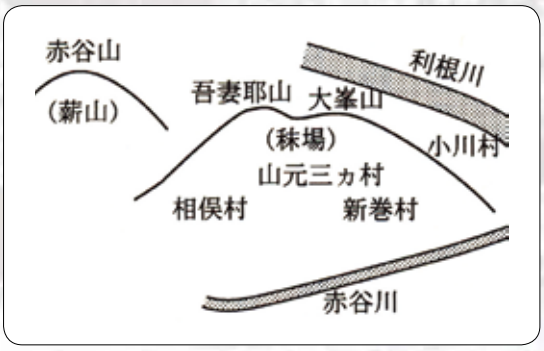


図1：大峰山の草刈り権利図

昭和10年ころの新治地区。
相俣から永井方面を望む
（新治村作成『目で見る新治村』より）

・親兄弟であっても見逃し伐り取らせた場合は処罰する人々が大切に森を守り育てていた証です。

江戸時代には田んぼや畑にイノシシやシカが出没し、野生動物の侵入を防ぐために男女問わず見張りをしたという記録も残っています。野生動物による農作物被害は、人間にとって古くからの問題なのですね。

●明治・大正・昭和

木炭、木酢液を生産し、昭和になって今の森に

明治・大正時代になると、農業・養蚕業に加えて製炭業が盛んになりました。

冬の農閑期には、男の人は国有林へ入って泊まりがけで木を伐採して炭を焼き、女の人は炭俵を編む仕事をしていました。大正13年の調査では、新治地区全体の養蚕業の収入が33万5千円、木炭販売による収入が22万9千円ですので、その規模の大きさがわかります。

森林資源の利用はしだいに増え、大正5年には赤谷川上流の広河原地区に日本酢酸製造の赤谷工場が発足。昭和7年まで赤谷川、小出俣沢、茂倉沢の流域で森林を伐採し、かまで焼き、木酢液や木炭を生産しました。

当時としては規模の大きい方で、工場周辺には300人もの人が住んでいたといいます。昭和初期には永井地区で伐採、加工を行う製材所が開かれ、昭和17年まで生産を続けました。

赤谷川、小出俣沢、茂倉沢、ムタコ沢などではこの時期に自然林が伐採され、現在は二次林や人工林が主となっています。その後高度経済成長に伴って、スギやカラマツが積極的に植林されるようになり、現在の「赤谷の森」の姿ができました。

赤谷酢酸工場のトロッコ
（新治村作成『目で見る新治村』より）

●これからの赤谷

もう一度、森と関わる文化をつくりだそう

日本ではこの数十年で燃料は石油などに代わり、農業では耕うん機や化学肥料が普及して、堆肥や牛馬のための草も不要になりました。採草の場所は植林や牧場などに転用され、日本の歴史上、今ほど人が山に入らなくなった時代もないと言われます。

「赤谷の森」の歴史をふり返って、豊かな自然は人々の暮らしの中で利用され、残されてきたことがわかりました。

新治地区では猟友会が組織され、山岳会や登山道管理の活動も行われています。また小学校では三国街道や大峰山を遠足の場としています。

今後、森の自然と森から得られる恵みをより豊かにするために、私たちはもう一度、森林と関わる文化をつくりなおす必要があるのかもしれません。

赤谷プロジェクトの

活動

今後の活動予定

「ムタコの日」のお知らせ

「おいしい水と豊かな森」に支えられた地域づくりを目標に、森林整備作業を実施します。みなさまのご参加をお待ちしています。

○**実施日**　8月8日（日）13時から16時

○**集合場所**　町営赤沢スキー場（12時30分より受付開始）

○**実施場所**　みなかみ町 永井地区内 ムタコ沢

○**募集対象**　小学生以上（小学生は保護者同伴）

○**準備するもの**　野外活動のできる服装（長袖、帽子、長靴）、雨具、飲み物

○**参加費**　600円

○昼食はお済ませのうえ、お越しください。荒天時は中止。

○**申し込み先**　赤谷森林環境保全ふれあいセンター ☎0278＊60＊1272

○**締切**　8月2日（月）

○**主催**　赤谷プロジェクト地域協議会

赤谷プロジェクト 活動日誌

活動日	活動内容(活動場所)
1月29日	ほ乳類ワーキンググループ会議(日本自然保護協会)
2月2日	植生管理ワーキンググループ会議(日本自然保護協会)
2月3日	「赤谷の森構想」打合せ(関東森林管理局)
2月14日	赤谷の森自然散策(旧猿ヶ京小学校、いきもの村)
2月19日	環境教育ワーキンググループ会議(日本自然保護協会)
2月26日	自然環境モニタリング会議(日本自然保護協会)
3月2日	新治小学校環境教育(新治小学校)
	水生昆虫調査(赤谷の森)
3月3日	水生昆虫調査(赤谷の森)
3月7日	赤谷地区総会にて、「赤谷の森構想」説明会(赤谷地区公民館)
3月16日	高原千葉村自然教室指導者講習会(いきもの村)
3月23日	企画運営会議(みなかみ町新治支所)
4月21日	ムタコの日実行委員会(法師温泉)
4月24,25日	自然誌調査(赤谷の森)
5月3日	ムタコ沢水質濁度調査(ムタコ沢)
5月13~15日	沖縄弁護士会視察(いきもの村他)
5月15,16日	放送大学面接授業への協力(小出俣他)
5月20日	植生管理ワーキンググループ会議(日本自然保護協会)

●赤谷の日(いきもの村他)
2月6日（7日は大雪のため中止）／3月6、7日／4月3、4日／5月1、2日

●赤谷プロジェクト地域協議会役員会(旧猿ヶ京小学校)
2月7日／3月7日／4月4日／5月2、30日

●猛禽類調査(赤谷の森)
1月29~31日／2月18、19、23、27日／3月1~3、8、20~22日、31日／4月4、10、13、15、20、29、30日／5月1、14、17、18日

●ホンドテンモニタリング調査(赤谷の日以外の調査日、赤谷の森)
1月30、31日／2月13、14、20、23日／3月13、18日／4月24、25日／5月3、16、18日

編集部だより

今回より、読みやすくなるようフォーマットを変更し写真をふやすなど、誌面を一新いたしました。「赤谷の森」のできごとや、赤谷プロジェクトの活動などを紹介いたします。

引き続きのご愛読をよろしくお願いいたします。

（赤谷の森のツッッペ）

新メンバーの紹介

4月の人事異動等で、プロジェクトのメンバーが新しくなりましたので紹介します。

ほ乳類ワーキンググループ委員
東京農工大学　農学部
地域生態システム学科教授

梶　光一
（かじ こういち）

北海道庁の研究機関でエゾシカの生態や管理に関する研究を15年行なった後に、4年前に、農工大に移りました。「赤谷の森」は豊かな動物相に恵まれ、プロジェクトでは、国有林、NGO、住民の連携のもとで、多様な研究者と一緒に自然生態系の保全の仕事ができるのが大変魅力です。

(財)日本自然保護協会
保護プロジェクト部
部長

大野雅人
（おおの まさと）

自然観察指導員講習会を担当後、川辺川や小笠原、沖縄・辺野古…自然保護現場で人と自然に向き合い、東京で物事を考え行動してきました。特技は、自然を観ること、自然と戯れること、自然で汗をかくこと、食べること。

赤谷のさまざまな出来事が社会のエポックになるよう頑張りましょう。

関東森林管理局
計画部長

石澤尚史
（いしざわ なおふみ）

幼稚園の時から昆虫大好き、大学ではシカやカモシカの調査に参加、林野庁就職で自然相手の仕事ができると思ったのですが、意外にそうでもありませんでした。

これからは関係者の皆さんと一緒に楽しく森林づくりができると思うと大変嬉しいです。趣味は昆虫採集、写真撮影、PC自作、中国志怪書です。

関東森林管理局
計画課長

斎藤　哲
（さいとう さとし）

昨年十二月から関東森林管理局計画課に参りました。

「赤谷プロジェクト」のことは以前から伺っており、「何と壮大なことに取り組んでいるんだろう」という思いを抱いていました。

平成22年度は、赤谷プロジェクトの場である利根上流森林計画区の地域管理経営計画などの策定の年。地に足の着いた計画書の策定に取り組んで参りますので、よろしくお願いします。

関東森林管理局
計画課 企画係長

中島浩徳
（なかしま ひろのり）

愛知県出身です。学生時代はワンダーフォーゲル部で山歩きをしておりました。赤谷プロジェクトがよりよいものとなるように全力で取り組んでいきたいと思いますのでよろしくお願いします。

新メンバーの紹介〈つづき〉

関東森林管理局
赤谷森林環境保全ふれあいセンター
所長
鈴木綾子
（すずき あやこ）

出身地は茨城県です。前職では外務省で政府開発援助（ＯＤＡ）を担当していました。

不慣れな点も多いかと思いますが、関係者の皆様と一緒に赤谷プロジェクトに取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いします。

関東森林管理局
赤谷森林環境保全ふれあいセンター
藤代和成
（ふじしろ かずなり）

北の果て北海道釧路市出身。

これまで3年間、森林官として、サポーターとして様々な形で赤谷プロジェクトのお手伝いをさせて頂いて参りましたが、ついに本格参戦させていただくことになりました！

自称、林業技術者の端くれとして、一生懸命がんばります！

赤谷プロジェクトに望むこと

西田真哉

トヨタ白川郷自然學校学校長
聖マーガレット生涯教育研究所所長
日本環境教育フォーラム環境教育
関東ミーティング実行委員会監事
日中韓環境教育協力会顧問
環白山保護利用管理協会副会長

２００８年「生物多様性基本法」が全会一致で制定され、国、地方公共団体、事業者そして国民の責務が定められました。そして本年10月に生物多様性条約第十回締約国会議（ＣＯＰ10）が名古屋で開催されることになり、「生物多様性」をテーマにして、様々な具体的動きが活発になっています。

この動きに自然学校として参与しなければと想いながら、私は、遥かに以前から、群馬の「赤谷の森」、「いきもの村」では、多くのボランティア方の賛同を得て、活発な自然保護の営みが継続されてきた事実に敬意を表したく想います。

「国有林における幅広い関係者の協働による生物多様性復元に向けた取り組み…赤谷プロジェクト」のリーフレットは、先月、国立赤城青少年交流の家で開催された「第６回環境教育関東ミーティング」でも紹介されましたが、次回開催地（おそらく栃木県内）では、第１回から第５回（会場は旧猿ヶ京小学校）までのときのように実行委員会とのコラボレーションが可能になればと願っております。

本誌や赤谷プロジェクトに関してのお問い合わせ先等は次のとおりです。

赤谷プロジェクト地域協議会
代表幹事　林　泉
TEL.0278-66-0888
事務局長　安田　剛士
TEL.0278-22-2119
http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/

(財)日本自然保護協会
プロジェクト担当　出島　誠一
TEL.03-3553-4107
http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林環境保全ふれあいセンター
所長　鈴木　綾子
TEL.0278-60-1272
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp

この情報誌は大豆を利用した植物性インキと間伐材を使用した用紙を使用しています。